

リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る 質保証制度の実施について

令和3年10月29日

科学技術・学術政策局 人材政策課

人材政策推進室長 三輪善英



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

前提：大学等教員の職務活動時間割合の推移①

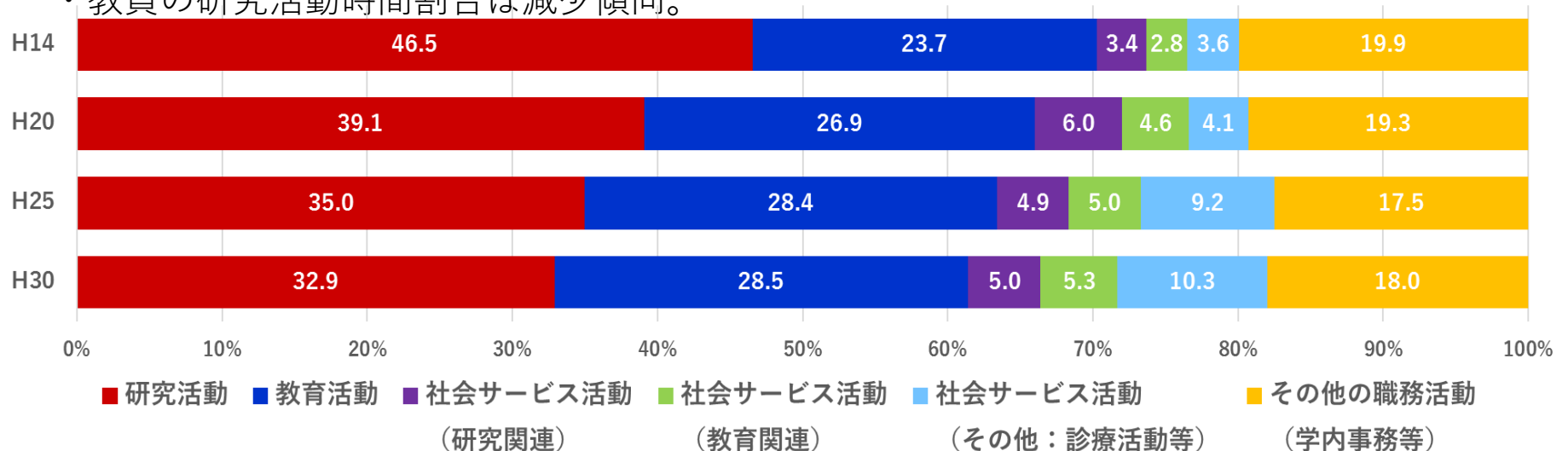
文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」（平成14年度～）

大学等における研究者の活動の実態を国際比較可能な形で把握し、研究や教育等にかかる時間の利用実態を調査することを目的とした一般統計調査。

調査実施年度の前年度の活動時間実績が対象（例：平成30年度調査は、平成29年度の実績について調査）。

①全体

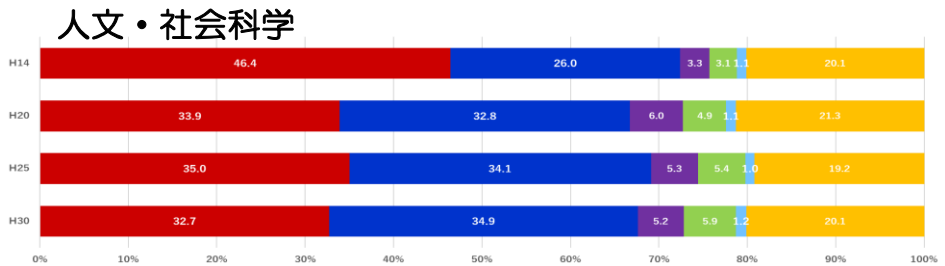
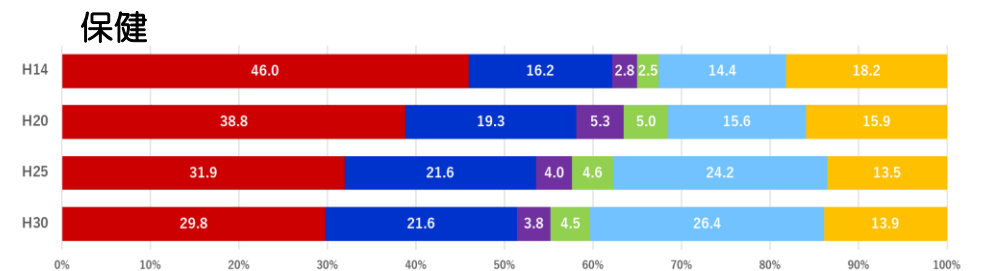
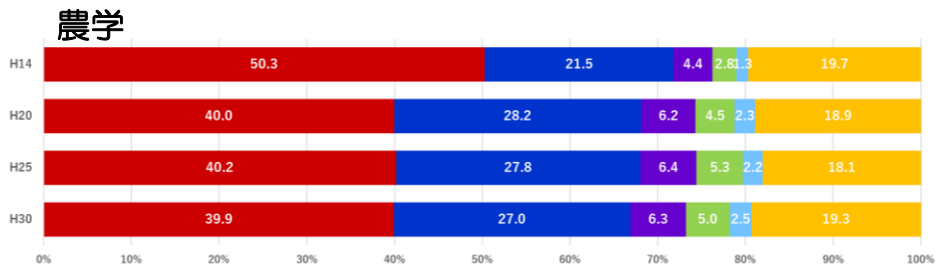
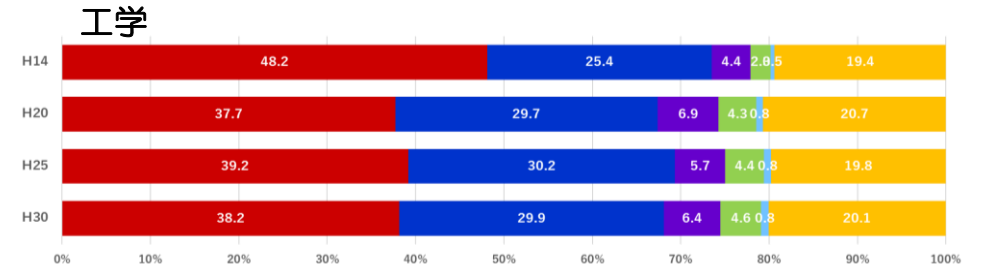
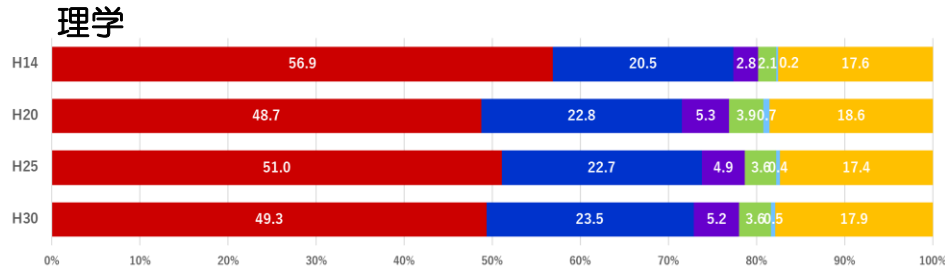
・教員の研究活動時間割合は減少傾向。



前提：大学等教員の職務活動時間割合の推移②

②学問分野別

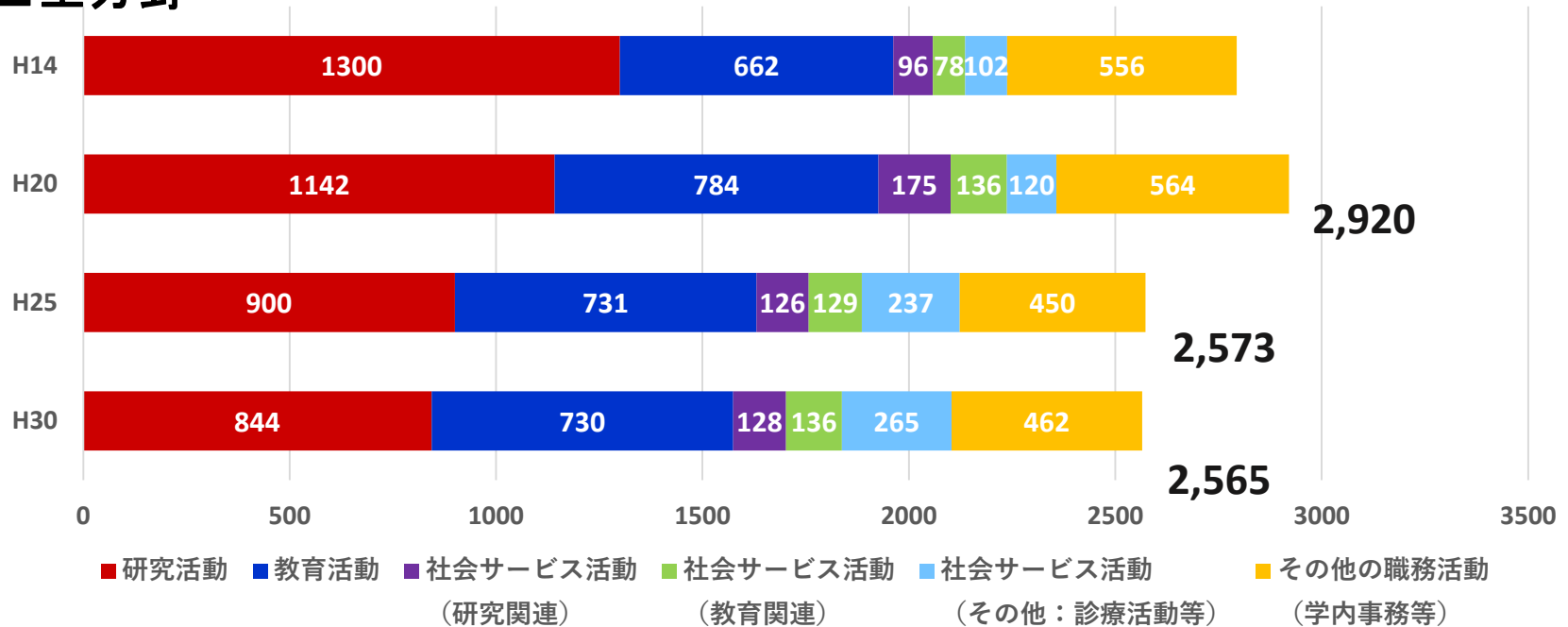
・保健分野以外の分野における研究活動時間割合は、H20以降、大きな変化は見られない。



■ 研究活動 ■ 教育活動 ■ 社会サービス活動 ■ 社会サービス活動 ■ 社会サービス活動 ■ その他の職務活動
 (研究関連) (教育関連) (その他：診療活動等) (学内事務等)

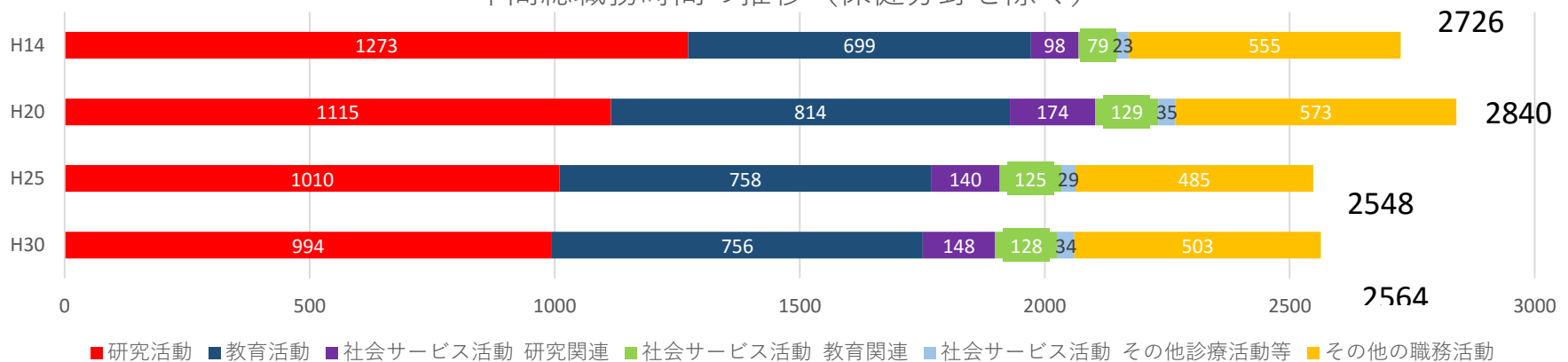
前提：大学等教員の年間総職務時間の推移

■全分野



■除く保健分野

年間総職務時間の推移（保健分野を除く）



第2章 Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

2. 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

（1）多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築

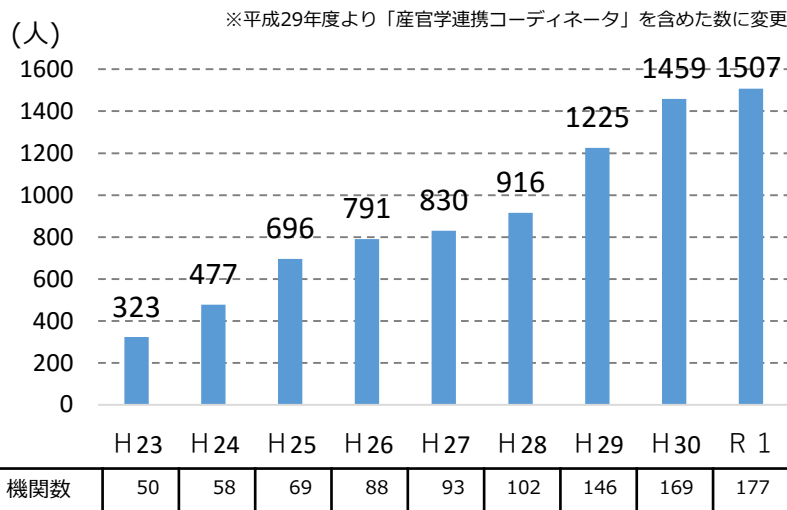
（c）具体的な取組

②大学等において若手研究者が活躍できる環境の整備

○ **URA等のマネジメント人材**、エンジニア（大学等におけるあらゆる分野の研究をサポートする技術職員を含む）といった高度な専門職人材等が一体となったチーム型研究体制を構築すべく、これらが魅力的な職となるよう、**専門職としての質の担保と処遇の改善に関する取組を2021年度中に実施**する。これにより、博士人材を含めて、専門職人材の流動性、キャリアパスの充実を実現し、あわせて育成・確保を行う。

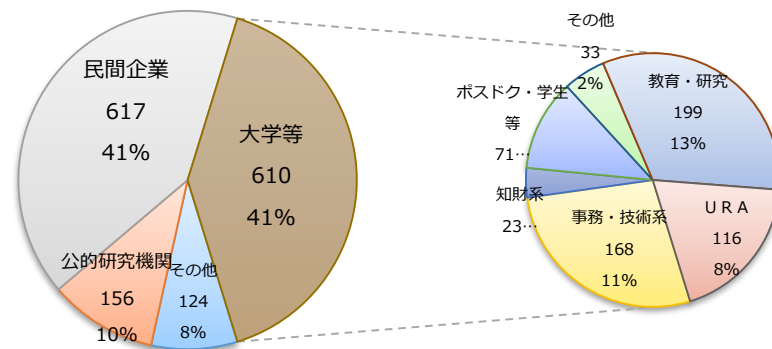
リサーチ・アドミニストレーター（URA）をめぐる状況等について

●URA配置数の推移

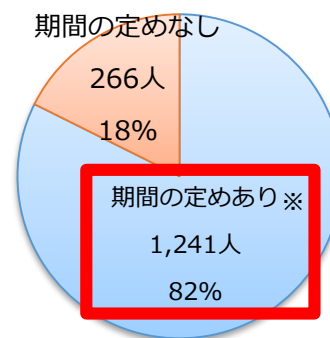


●URAの多様なバックグラウンド（n=1,507）

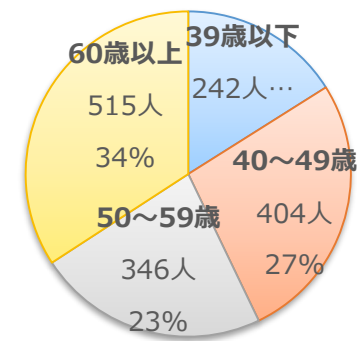
現在のURA職に就く前の所属機関等



雇用期間



年代構成



※「10年以上」と回答した54人を含む

●「URAとして配置」と整理する者の職務従事状況

主たる担当業務	プレ・アワード担当	ポスト・アワード担当	研究戦略推進支援担当	プレ・アワード及びポスト・アワード担当	プレ・アワード及び研究戦略推進支援担当	ポスト・アワード及び研究戦略推進支援担当	プレ・アワード、ポスト・アワード、研究戦略推進支援担当	教育プロジェクト支援担当	国際連携支援担当
従事人数	102	54	57	138	133	18	250	7	43
主たる担当業務	産学連携支援担当	知財関連担当	研究機関としての発信力推進担当	研究広報関連担当	イベント開催関連担当	安全管理関連担当	倫理・コンプライアンス関連担当	その他（いずれにも該当しない場合）	計
従事人数	424	173	7	33	7	8	12	41	1,507

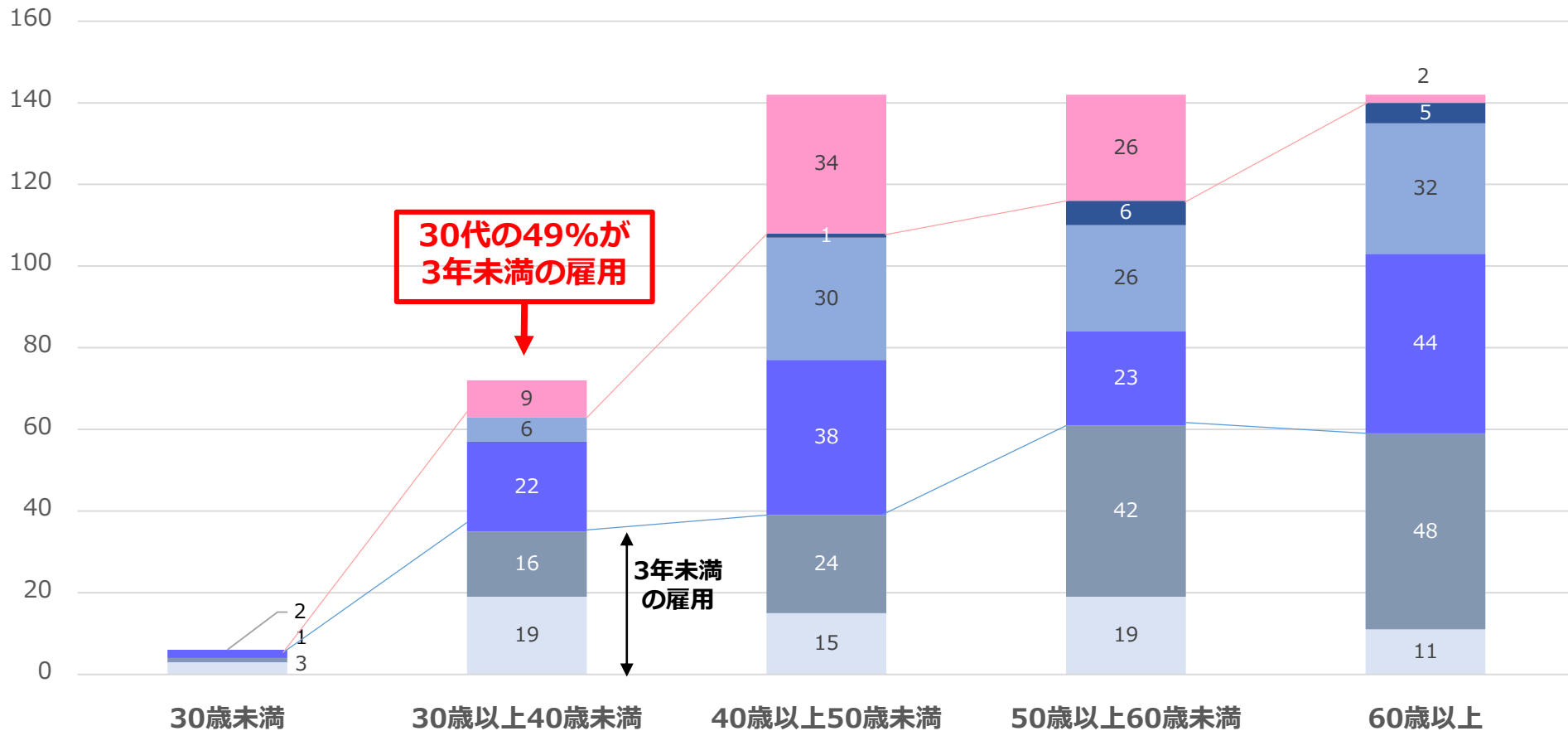
雇用財源

財源	人数
研究大学強化促進費	219人 (14%)
その他の外部資金	327人 (22%)
機関の運営経費	961人 (64%)

(参考) RU11全体における雇用状況 (年齢層別×雇用期間別)

○調査の概要

- 学術研究懇親会 (RU11) を構成する11大学 (※) に対し、リサーチ・アドミニストレーターの整備状況等について臨時調査を実施。
 - 令和3年4月1日時点で各機関においてURAとして配置している者について、URAごとに年齢層と雇用期間を照会し、回答を得た。
- ※北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、早稲田大学、慶應義塾大学

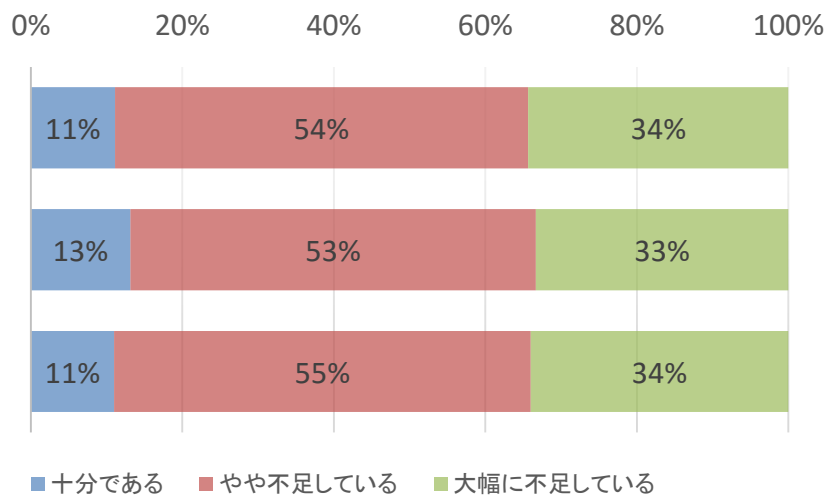


総数 :	6	72	142	142	142
有期雇用 :	6 (100%)	63 (87.5%)	108 (76.1%)	116 (81.7%)	140 (98.6%)
無期雇用 :	0 (0%)	9 (12.5%)	34 (23.9%)	26 (18.3%)	2 (1.4%)

■ 1年未満 ■ 1年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満 ■ 10年以上 ■ 無期雇用

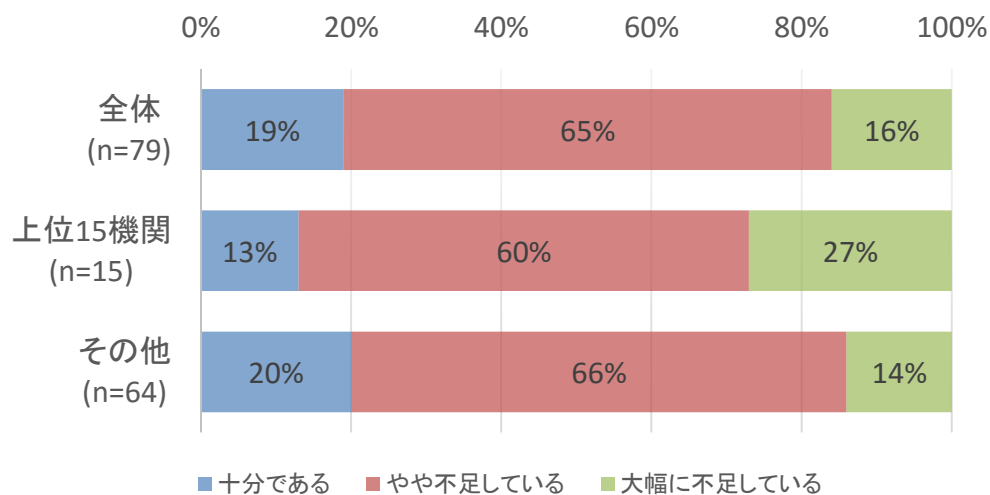
○雇用しているURAの充足状況について、**量・質ともに8割以上の機関が十分でない**と認識している

量的な充足状況



次世代の育成が必要

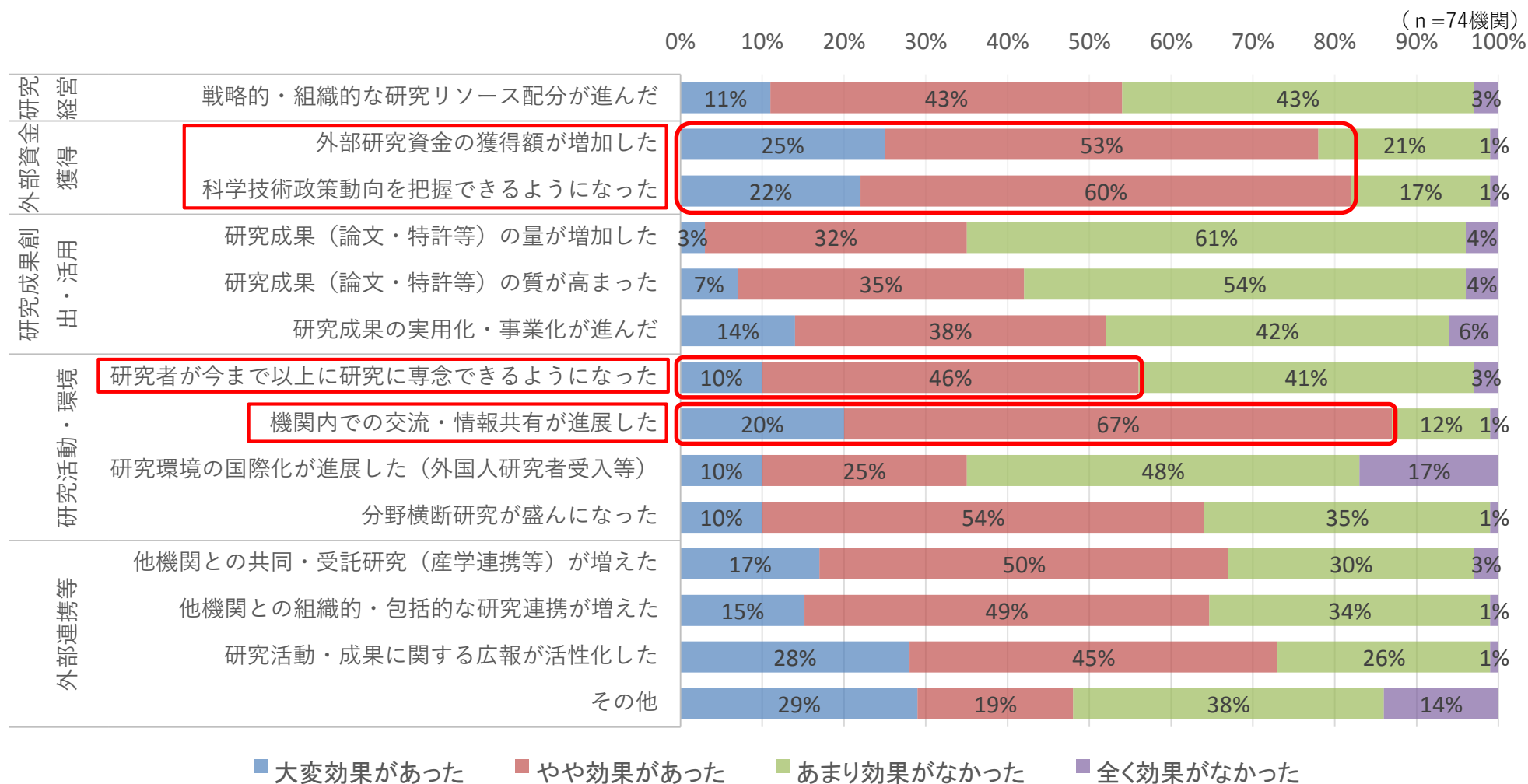
質的な充足状況



現職URAの資質向上が不可欠

上位15機関は、アンケート対象機関について科研費獲得額ランキング(平成27年度)による
 対象：「平成26年度大学等における産学連携等実施状況調査」において「URAを配置している」と回答した88機関
 出典：平成27年度文部科学省委託調査「リサーチ・アドミニストレーター業務の自立的運営に向けた調査・分析」（受託機関：(株)三菱総合研究所）

URAを配置したことによる効果



対象：「平成26年度大学等における産学連携等実施状況調査」において「URAを配置している」と回答した88機関

出典：平成27年度文部科学省委託調査「リサーチ・アドミニストレーター業務の自立的運営に向けた調査・分析」（受託機関：（株）三菱総合研究所）

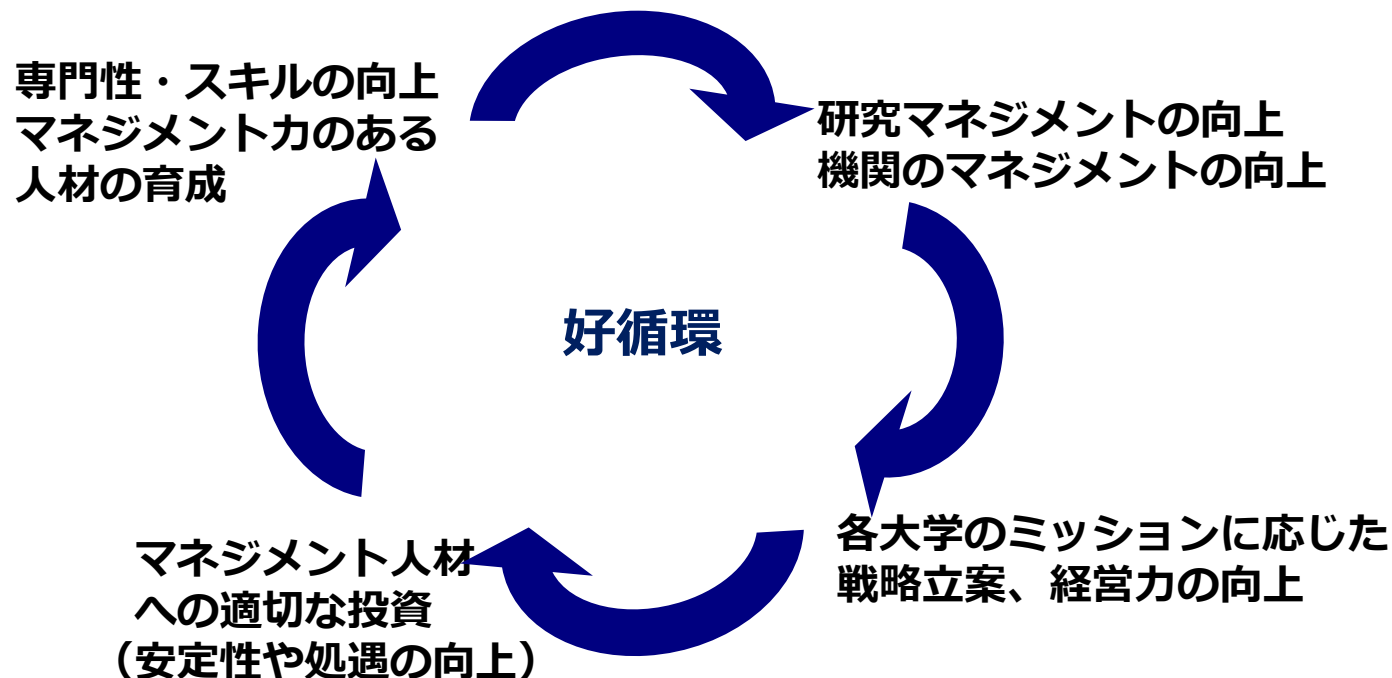
<URAをめぐる問題状況>

- 地位の安定性・継続性に欠ける ⇒専門性が向上しづらい
- 処遇が不十分 ⇒人材を確保しづらい
- 所属機関による職務の多様性 ⇒他機関が経験やスキルを評価しづらい
- ・多様なバックグラウンド



キャリアパスを描きづらい

<目指すべき姿>

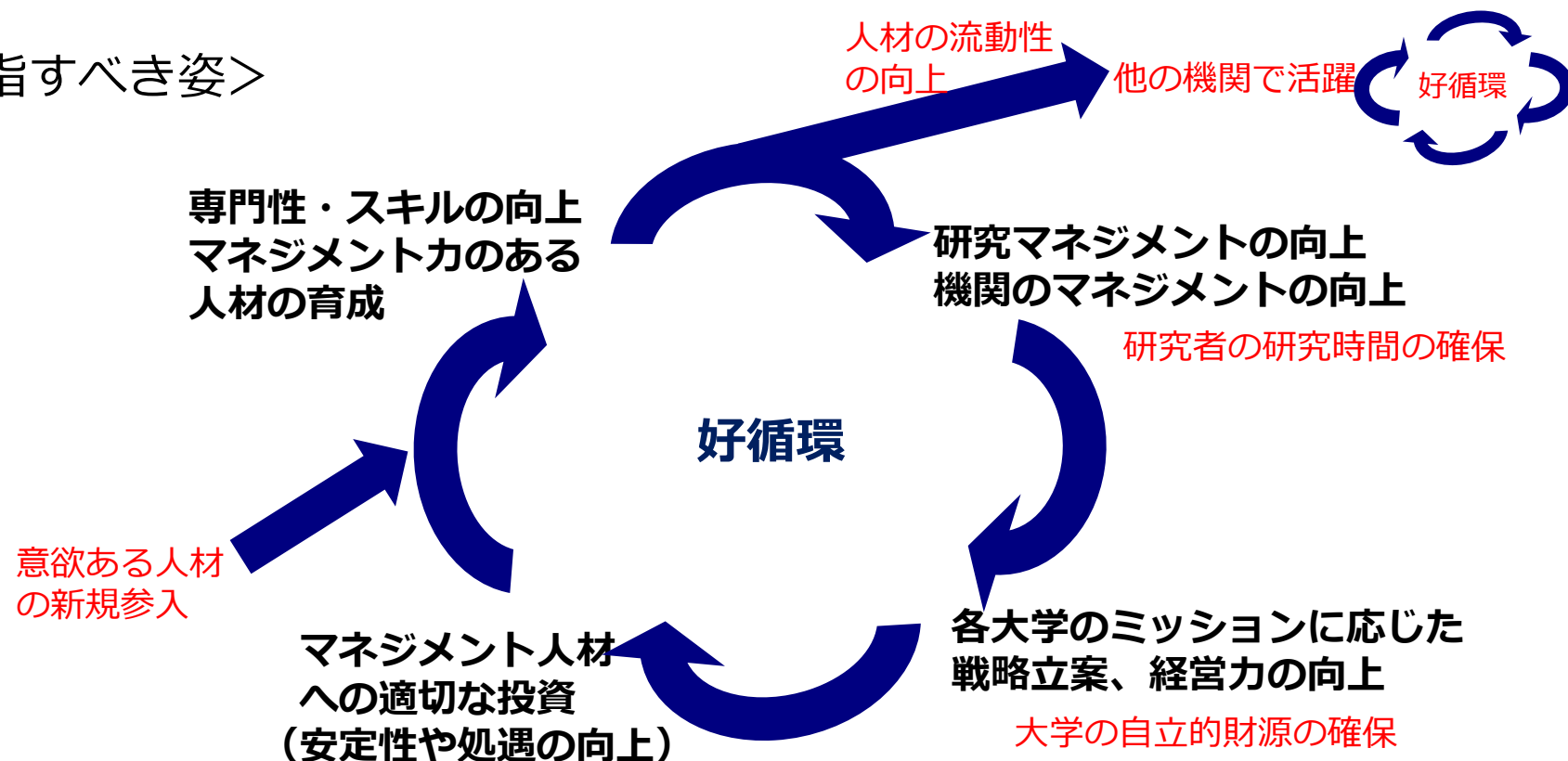


<URAをめぐる問題状況>

- 地位の安定性・継続性に欠ける ⇒専門性が向上しづらい
- 処遇が不十分 ⇒人材を確保しづらい
- 所属機関による職務の多様性 ⇒他機関が経験やスキルを評価しづらい
- ・多様なバックグラウンド

⇒ キャリアパスを描きづらい

<目指すべき姿>



背景・課題

○我が国の大学等を取り巻く環境が激しく変化し、自ら教育研究環境の革新を進めることが求められている状況において、**大学経営から研究戦略、研究推進支援に至るまで研究環境の充実に関与するリサーチ・アドミニストレーター(URA)**には、**中核的役割**が期待されているところ。

○URAが担う多様な業務に必要とされる専門的な知識の習得機会の提供や、専門性の高い職種としてURAの能力を可視化されることなどにより、**URA等のマネジメント人材の育成と配置が一層促進**されることをもって、**大学等における更なる教育研究推進体制の充実強化を実現**。

研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ(令和2年1月23日総合科学技術・イノベーション会議決定)

URAのキャリアパス構築に資する質保証制度の創設(2021年度)

科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)

○URA等のマネジメント人材、エンジニア(大学等におけるあらゆる分野の研究をサポートする技術職員を含む)といった**高度な専門職人材等**が一体となった**チーム型研究体制**を構築すべく、これらが**魅力的な職**となるよう、**専門職としての質の担保と処遇の改善**に関する取組を2021年度中に実施する。

事業概要

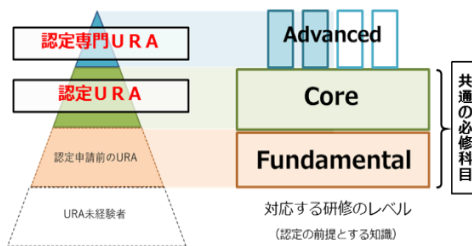
【事業の目的・目標】

質保証制度の実施に際し、URA等のマネジメント人材に必要とされる知識の体系的な専門研修受講の機会提供や、実務能力を踏まえた客観的な質保証(認定)を行うため、それらを行う質保証機関の運営を支援する。

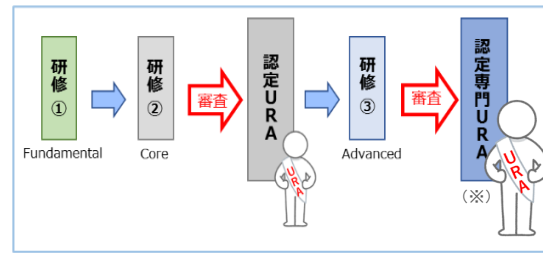
認定制度の概要

- ・研修は基礎的なレベルから3段階、認定は経験者を対象に2段階のレベルを設定する
- ・**多岐にわたるURA業務**の知識を得るための必修カリキュラムとして、Fundamental・Coreの2つのレベルにそれぞれ**15科目(10科目群)**を作成
- ・Coreレベル終了後に「**認定URA**」、専門的なAdvancedレベル終了後に「**認定専門URA(※)**」の認定を、書面又は面接審査を経た後に付与

◎認定と研修のレベル整理



◎研修の受講から認定までのイメージ



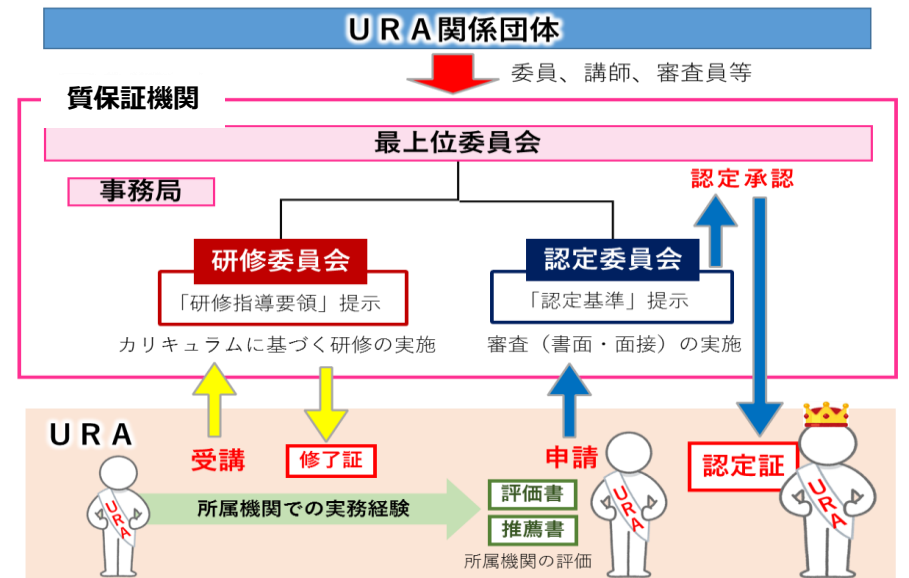
※認定専門URAの認定は、補助事業期間中の具体的な審査の内容、基準、方法等の検討結果を踏まえ実施を判断。

【事業スキーム】



- 支援規模: 45百万円程度(令和4年度)/年 × 3年(令和3年度/2021年度～)
- 事業開始後の評価等: 「進捗確認」及び「事後評価」の実施

【事業概要・イメージ】

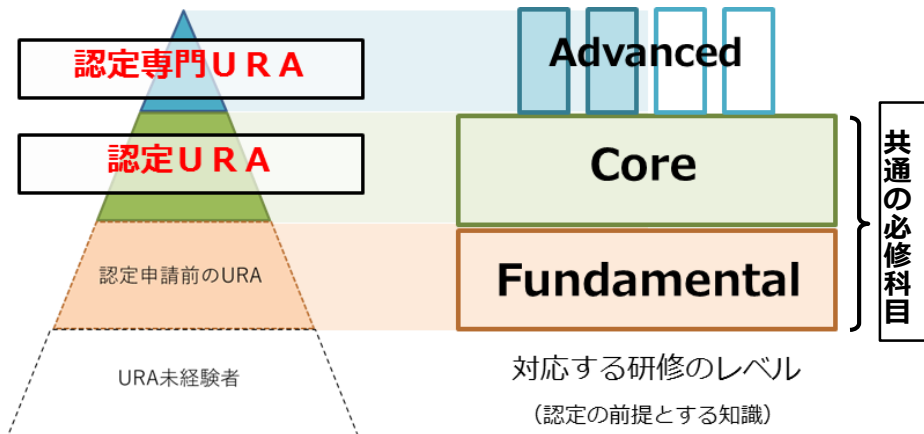


リサーチ・アドミニストレーター（URA）等のマネジメントに係る質保証制度（概要）

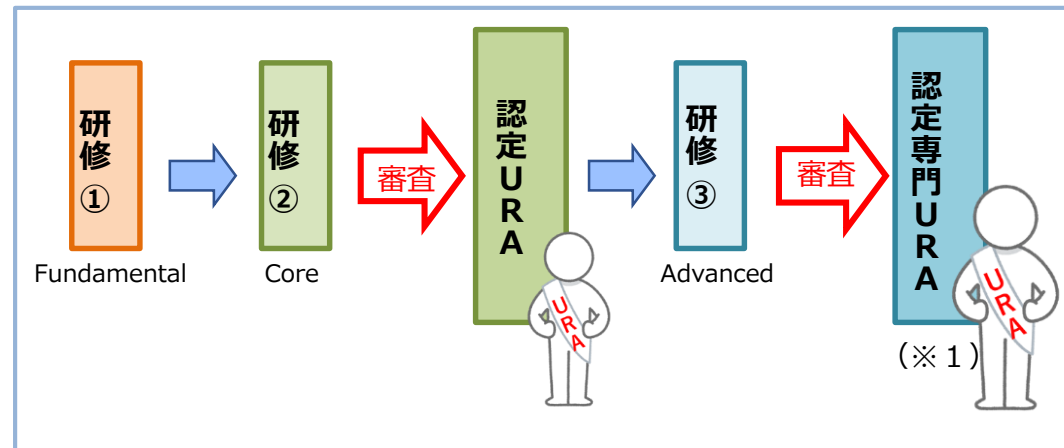
検討されている認定制度の概要

- ・研修は基礎的なレベルから3段階、認定は経験者を対象に2段階のレベルを設定する
- ・**多岐にわたるURA業務**の知識を得るための必修カリキュラムとして、Fundamental・Coreの2つのレベルにそれぞれ**15科目（10科目群）**を作成
- ・Coreレベル終了後に「**認定URA**」、専門的なAdvancedレベル終了後に「**認定専門URA**」の認定を、書面又は面接審査を経た後に付与

◎認定と研修のレベル整理



◎研修の受講から認定までのイメージ



※1 認定専門URAの認定は、補助事業期間中の具体的な審査の内容、基準、方法等の検討結果を踏まえ実施を判断。

◎研修科目群（FundamentalおよびCore）

科目群		科目名	
A	研究機関とURA	1	大学等の研究機関
		2	日本のURA
B	研究力分析とその活用	3	科学技術政策概論
		4	研究力分析とその活用
C	研究開発評価	5	研究開発評価
D	外部資金	6	外部資金概論
		7	申請書・報告書の作成支援
E	研究プロジェクト	8	研究プロジェクトのマネジメント手法

科目群		科目名	
F	セクター間連携	9	産学官連携
		10	地域連携
G	知的財産	11	知的財産
H	研究コンプライアンスとリスク管理	12	研究コンプライアンスとリスク管理①
		13	研究コンプライアンスとリスク管理②
I	研究広報	14	広報
J	国際化推進	15	国際化推進

※2 令和元年度科学技術人材養成等委託事業「リサーチ・アドミニストレーターに係る質保証制度の構築に向けた調査研究」（受託機関：金沢大学）を元に文科省作成